

【目標 1】内港エリアの活性化と、県東部物流を担う外港エリア等との機能的な調和・両立

- ・混雑・老朽化等の課題が集中する「内港エリア」の活性化とともに、中心市街地・周辺観光地・広域（伊豆半島・富士山）への回遊性の向上を図る
- ・県東部の物流を支える「外港エリア」の機能維持を前提に、内港・外港それぞれの特性を活かし、港全体として調和のとれた共存・発展を図る

【目標 2】民間活力の最大活用と、明確な役割分担のもと、持続可能な「エリアマネジメント」の構築

- ・民間の先進的な提案の反映や、官民連携制度（みなと緑地PPP等）の活用を視野に、民間投資を呼び込み、継続的な賑わいを生み出す仕組みを形成
- ・「魅力ある収益施設は民間」「周辺インフラの整備や規制緩和は行政」を基本に、官民それぞれの強みを活かした役割分担を明確化
- ・単なる整備計画にとどまらず、行政・地域・事業者が連携し、港の魅力と価値を持続的に高めていくエリアマネジメント体制を構築

【目標 3】「沼津ならではの」魅力を活かした賑わい空間の創出と、沼津観光の「滞在型」への転換

- ・海産物・食文化・富士山景観など、「沼津ならではの」地域資源を活かした魅力ある賑わい・滞在空間を創出
- ・沼津港を核として、市全体の観光を「立寄り型」から「滞在型」へ転換し、滞在時間の延長と観光消費を拡大